特派員レポート⑬

## 富岡製糸場と古社と城跡を訪ねて

最初の目的地は群馬県富岡市の貫前（ぬきさき）神社です。神社は鳥居をくぐり、石段を下る参道が全国的にも珍しく、低地に社殿が鎮座されています。一之宮の風格に気持ちが引き締まる思いです。御祭神の一柱に農耕と機織りの守護神とされる「姫大神」が祭られて、古来から養蚕の先進地として栄えたことを改めて知ることができました。

次に富岡製糸場を見学しました。私の想像していた風景とは、けた違いの壮大な工場で百余りの建造物群に目を見張ります。長さ140メートルに及ぶ操糸場内部の機械は操業休止時のまま整然と保存され、機械油のにおいが立ち込め、今すぐ稼動しそうな錯覚を起こすほどです。

次は埼玉県神川町の金鑽（かなさな）神社に参ります。古代から山全体を御神体として原始信仰の続く古社です。

山神様を拝してより、鉢形城跡を訪ねました。とうとうと流れる荒川を眼下に天然の要害に守られているこの城を配下に治めようと戦国武将の合戦…夏草や強者どもが夢のあと（芭蕉）に想いを馳せ充実した研修会は終了しました。

石川 朝子

特派員レポート⑭

## 元気いっぱいの敬老会

9月13日、スカイホールで平成20年度の敬老会が行われました。私立の東松原保育園児のオープニングで始まり、先輩であるおじいさん・おばあさんの前でちょっぴり緊張しながらも笑顔で演技をしており「可愛い、可愛い」の声で会場の皆様も温かいエールを送っておりました。

町長をはじめ、役員の方々のあいさつがありましたが、寿クラブ連合会の代表の方からのユーモラスなお言葉には、会場いっぱいに笑い声が響きました。歌謡ショーでは永遠のアイドルとして活動されている橋 幸夫さんが懐かしい曲を披露され、会場の方々も手拍子をしながらこの時間ばかりは若いころに戻ったようでした。

社会のため、家族のためいろいろとご苦労もあったことでしょうが、年齢を重ねてもまだまだ元気で活躍されることを楽しみにしております。

私も来年は皆さんの仲間に入りますが、健康に気を付けて、ぜひ参加できるように頑張っていきたいと思います。

難波 睦子

特派員レポート⑮

## 裁判所

8月の中旬に刑事裁判を傍聴に霞ヶ関の裁判所に娘と行きました。入り口で空港のように手荷物検査をした後、当日の裁判の予定を閲覧して、傍聴したい法廷に行きました。

最初の裁判は覚せい剤取締法違反でした。罪状が検察側から読み上げられた後、証人として母親が証人台で生活状態から今後の更生方法まで細かく聞かれる姿は聞いていて本当につらいものでした。

次の裁判は性犯罪で、奥さんがやはり同じように証言しなければなりませんでした。こちらの被告人は保釈金を積んで普通の生活をしているということで、何だか恐ろしい気がしました。

驚くことに、2件とも再犯の可能性が極めて高いということでした。新聞やテレビで見るような、このような事件が毎日どこかで起こっているのかと思うと、とても気分がめいる思いでした。

傍聴席は娘と同じように夏休みの宿題のためか、学生でいっぱいでした。娘は被告人にプライバシーが無いことに非常に驚きながらも検察官、弁護士ともに女性でテキパキと仕事をしている姿に〝かっこいい〟と感動をしていました。

平成21年5月からは裁判員制度が実施されることになっています。素人の私たちがどう向き合っていくかが今後の課題になりそうです。

吉積 喜代子

## 情報倶楽部　町内で活動している団体・サークルの情報提供　会員募集

### ソフトバレーボール

★初心者大歓迎です。一緒に楽しく汗を流しましょう。

**団体名**　ＭＩＺＵＨＯ
**日　時**　毎週水曜日（月４回）
午後７時30分～９時
**場　所**　瑞中体育館
**対　象**　どなたでも
**費　用**　年会費　1,000円
**持ち物**　運動靴
**問合せ**　石井
℡090－6953－6230

### 水泳

★楽しみながら運動不足の解消と体力アップを目指して、水中ウオーキングや水泳をしませんか。

**団体名**　アメンボクラブ
**日　時**　毎週木曜日（月４回）
午前９時～11時
**場　所**　羽村市スイミングセンター
**対　象**　初心者または泳げる方
**費　用**　入会金　1,000円
月会費　3,000円
**持ち物**　水着、ゴーグル、帽子
**問合せ**　佐藤　℡555－0735

## みんなのページ　ひゅーまんたうん

住所・氏名・電話番号を明記してください。なお、ペンネームや匿名希望の方はご記入ください。

秘書広報課 ℡557―7497

高校生特派員レポート①

## 奉仕から学び得たこと

夏休みに入る少し前、授業の一環として奉仕について学びました。

奉仕では、日ごろからお世話になっている保育園に、もう使わなくなったタオルでぞうきんを縫ったり、地域の方々から瑞穂町のこと、ボランティアのことについてお話を伺ったりしました。どの時間も自分が今まで知らなかったことだったり、初めての体験だったりとすごく興味をもって受けることができ、いろんなことを学び得ることができました。

その中で一番印象的だったのは、「ボランティアはしてあげるのではなく、させていただいている」という先生の言葉でした。

私は、その言葉を聞いて、私も先生方のようにたくさんボランティアに参加して、自分の世界を広げていきたいと思いました。そのためには、自分が瑞高生として、どんなことができるかを考えてみたいと思っています。

瑞穂農芸高校　林 夏海

高校生特派員レポート②

## 忘れていたもの

「緑の多い所だな」これが私の瑞穂町の第一印象でした。この町を私は去年の夏に知り、初めてこの町に来ました。そこは都会で育った私にはとても新鮮な場所で、「空気が私の住んでいる場所と違う」と感じ、私の住んでいる場所との違いに驚きました。

まず、ビルが無く、電車の本数も１時間に２本だけです。そんな違いに初めは戸惑いましたが、何だか魅力的に思いました。緑が多く、野生動物がいることなど、都会には無い部分に惹（ひ）かれたのだと思います。

考えてみたら私は、今までにこんなに自然と触れ合ったことがありません。だから今、素直に真正面に自然と向き合っている気がして、とても嬉しく感じている自分がいます。自然と向き合うことで、私は何か忘れていたものを感じられたのです。

今このことに気付き、私は瑞穂町に来て大切なことを学びました。私はこれからもこの町に居ます。その中でまた違う何かを得られたら。と思います。

瑞穂農芸高校　澤 七恵